



## 1 社会資本の概要

鬼怒川は、日光国立公園内にある鬼怒沼を源流とし、栃木県から茨城県にまたがって流れる全長約177km、流域面積1,761km<sup>2</sup>の一級河川です。源流部は、渓谷を流下する急流となっており、栃木県日光市(旧今市市)付近で奥日光から流れ来る大谷川と合流した後、川幅が広く雄大な流れとなり利根川に合流します。古代には「毛野川(けぬかわ)」、中世~近世には「絹川」や「衣川」とも表記され、明治時代以降に「鬼怒川」に定着しました。舟運や治

水の対策として重要な河川ですが、江戸時代以降も度々洪水をおこしていたため、古くから「あばれ川」としても知られています。

中流域にはカワラノギクやミヤコグサなどの希少植物が生育しており、自然環境保全地域として指定されているとともに、さくら市付近の鬼怒川河川敷は、シルビアシジミの生息地として本州の北限に位置し、発見の地とあいまって、非常に重要な位置を占めています。



鬼怒川中流域の状況



ゆうゆうパークと鬼怒川から日光連山を望む



鬼怒川の礫河原の状況

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

本会が保全対象としたシルビアシジミは、1877年に栃木県さくら市上阿久津地内の鬼怒川河川敷にて採集、新種として記録されました。また、栃木県で絶滅危惧I類に指定されるとともに、鬼怒川河川敷の3エリアは栃木県自然環境保全地域として指定されています。地域の協力者とともに2003年より保全活動を開始し、本種の食草「ミヤコグサ」を保護増殖するとともに、次世代への環境教育や普

及啓発を行うことで、継続的な生物多様性の保全に務めています。また、行政機関からの講師依頼や執筆依頼に加え、ラジオやテレビなどへの取材・出演対応、SNSへの積極的な投稿により、広範な年代へのPRを行っているほか、Save Japan Projectやサシバの里自然学校との連携活動をとおして、より広範で若い世代へのアピールを行っています。



保全対象のシルビアシジミ



シルビアシジミの食草「ミヤコグサ」



ミヤコグサ第1管理地の除草作業

## 3 活動の成果や波及効果等

より多くの教育機関へ活動の場を広げることで、次世代の健全育成につながるよう努めています。特にさくら市内の小学校5年生を対象にした座学及び鬼怒川河川敷での外来種駆除等の環境学習を継続することにより、中学校~大学に進学してからもボランティアに参加してくれる子供たちが見られるようになりました。また、10年ほど前までの参加者は、近隣に居住する高齢者が主でしたが、近年は若い世代が多くなり、活動初期に小学生だった参加者が親世代となり、子供と一緒に参加してくれるようになるなど、長年の活動が環境保全への普及啓発や特定外来生物への対応理解、生物多様性保全につながっています。



小学校での座学



小学生による外来種駆除活動



保全地の除草作業



シルビアシジミ観察会

## 喜びの声



**受賞者**  
特定非営利活動法人  
水辺環境保全研究所  
理事長  
高橋 伸拓

### コメント

これまでの20年以上の活動に対して評価していただき感謝しております。当初はシルビアシジミの保全を目的としていましたが、カワラノギクの保全、鬼怒川の生物多様性保全に注力するようになりました。広範な社会的要請に応えるべくNPO法人として再始動しました。今後も生物多様性保全に尽力していきますので、皆様のご理解と協力をよろしくお願い致します。

### 活動の内容

- シルビアシジミ及びカワラノギクの保全活動
- 希少動植物の生育・生息状況調査
- 鬼怒川の環境保全への普及啓発
- さくら市、宇都宮市内教育機関への環境教育
- 管理活動と自然観察会の融合及び実施
- 企業の社会貢献活動及びユースボランティアの積極的受け入れ

### 活動の経歴

- 平成15年 うじえ自然に親しむ会設立
- 令和5年 とちの環県民会議表彰 受賞
- 令和5年 河川愛護団体等表彰 受賞
- 令和7年 NPO法人化 水辺環境保全研究所設立

**所在地** 栃木県さくら市、宇都宮市  
**活動主体及び連絡先** 特定非営利活動法人 水辺環境保全研究所  
TEL:080-3456-4255  
E-MAIL:n.takahashi@i-wec.org  
**対象となる社会資本** 一級河川 鬼怒川  
※管理者:関東地方整備局 下館河川事務所

